

# 高瀬省三展 彫刻

2019年 7月6日(土) — 7月14日(日)

定休日 10日 OPEN 11:00 — 18:00

●6日(土) 高瀬省三氏の奥さま 久子さんが在廊されます



●高瀬省三さんとは、大磯の「桃の家」で引き合わせてもらった。桃の家は、料理のさわやかな店だった。そこで何度か一緒に食事をした。高瀬さんは、夕方になるとフルートを吹くような、静かな1人の時間をもつ面と、友達と賑やかに過ごす面があったそうだ。日本画家として活躍していたが、60歳を前に末期ガンの宣告を受けた。

「都心から大磯に移り住んで十年、浜辺の散歩が日課になった。

あるとき、大型台風で、大量の流木が浜に打ち上げられた。

ごく自然に、拾って、デッサンし、造形を試みるようになっていた。

流木を手にしたとき、作りたいものが見えてくるのが面白かった。」

「風の化石」あとがきより

命の限りを見つめ、濃密な時間を過ごした最晩年に作られた彫刻25点。それを収めた作品集が、筑摩書房から出版されたその年、高瀬さんは亡くなった。彼の住んだその家を借りることにしていたので、何回も通って、流木をあつかった彼のアトリエもすぐ気に入っていた。それから10年後に、平塚市美術館で回顧展が開催され、その後、その作品の全てを菜の花が引き受けることになったのだった。

茨木のり子さんの詩集のうち3冊の表紙絵を描いていた。その時の写真を担当した坂本真典さんが、高瀬さんの流木の作品に魅かれて、「風の化石」が生まれた。その縁で高瀬さんの作品集「風の化石」には、茨木さんの序文が寄せられている。

円空は、かつて、雑木のなかから佛像を彫り出した。

木っ葉佛など、今思い出してもなつかしい。

高瀬省三さんは、大磯の浜に打ちあげられた

流木を拾ってきて、少々の手を加えることによって、

ふしぎに聖なる造型を果している。

作品を見ていると、焚火にもされず、

新たに息を吹きこまれ、命の最後の所を得た、

流木たちのよろこびと安堵のおもいが、

ひしひしと伝わってくる。

茨木のり子「風の化石」序文より

ぜひ、作品を見に来て味わってください。

そして、うつわ菜の花の協力で再出版された「風の化石」が、

300冊ほどあります。お手元に置いて下さい。

2019.6.25 ●高橋台一

## 高瀬省三 プロフィール

1943年生まれ日本画家

2001年 末期がんの宣告を受けてからは、大磯海岸に流れ着いた流木で彫刻を制作

2002年 61歳で亡くなるまでの半年間、彫刻の制作に情熱をそそぐ

2002年8月 高瀬省三作品集「風の化石」出版

2002年10月 61歳で亡くなる

2010年11月 平塚市美術館にて「高瀬省三・石橋聖肖展」開催

2014年8月 箱根菜の花展示室にて「高瀬省三展」開催

## うつわ菜の花

小田原市南町1-3-12 電話0465-24-7020

小田原駅東口より箱根方面へ向かうバス利用

[箱根口]バス停下車徒歩2分セブンイレブン向かい側





